

NO	頁	章	項目				内容・意見
1	7	2	2.2			施設概要	●ご意見 吹き出しの文字が細かすぎて判読できません。図面の名称がありません。
2	13	3	1.1	(2)	③	鉛製給水管	●内容 3段落目 市が更新を行う範囲は配水管からメーターまで（一次側）であり、宅地内のメーター以降（二次側）の鉛製給水管は所有者の管理になります。
	39	6	1.1	(2)		鉛製給水管の早期解消	●内容 2段落目 市が更新を行う範囲は配水管からメーターまで（一次側）であるため、宅地内のメーター以降（二次側）の鉛製給水管に関しては、市での把握が難しく、残存している可能性があります。 ●ご意見 鉛製給水管に関する記述について、現在のビジョンの内容からは、「市の責任はここまでで、あとは市民（所有者）の責任ですよ」というメッセージに受け取れますが、市民の安心と健康を願うのは市の役割と考えます。所有者の対応が必要な部分があるとはいえ、市が市民に寄り添い、共に課題解決に取り組むようなニュアンスを追加できないでしょうか。
3	19	3	1.2	(2)		危機管理体制	●ご意見 「緊急連絡管の位置図」の下段 右端にある「四條畷市」と記載されている箇所は、大阪広域水道企業団の四條畷水道センターとの連絡管でよろしいでしょうか。四條畷市なのか、あるいは企業団の四條畷水道センターなのか、紛らわしくなります。記載方法についてご配慮いただくことはできますでしょうか。
4	20	3	1.2	(3)		応急給水・応急復旧	●ご意見 応急給水や応急復旧といった項目は、住民の方が特に関心を持たれる部分になるかと思います。
5	49	6				課題・実現方策・目標値のまとめ	●ご意見 鉛製の給水管に関する記述について、「残存率」という言葉にした方が伝わりやすいと思いました。これは減らしていく方向性、つまり残っていてほしくないという意味合いで、「残存率」とした方が分かりやすくなると思いました。

頁	修正
7	吹き出しの文字の大きさを含め、全体的にデザインを見直し、図面の名称の〈施設位置図〉を記載した。また、その他のページの画像、図、表、文字のデザインを見直した。 その他、ご意見をいただいた箇所の修正後 P20 〈応急給水拠点等位置図〉、P26 〈上下水道局ホームページ〉
13	3段落目 市が更新を行う範囲は、配水管からメーターまで（一次側）であり、宅地内のメーター以降（二次側）の鉛製給水管の管理はお客さまに行っていただいています。
40	ご意見について、実現方策に内容を記載した。 2段落目 宅地内のメーター以降（二次側）の鉛製給水管についてはお客さまに管理していただいておりますが、取り替える際に埋設状況が不明な場合には、市に保管しております給水申請書などを元に調査の協力をさせていただきます。
19	右端にある「四條畷市」と記載されている箇所は、大阪広域水道企業団の四條畷水道センターとの連絡管であるため、「企業団（四條畷水道センター）」と記載した。
21	P20の〈応急給水拠点等位置図〉に対応した拠点名と該当地区を記載した〈応急給水拠点一覧〉をP21に掲載した。また、「上記の拠点では、該当地区によらず給水可能です。」と追記した。加えて、P26の〈上下水道局ホームページ〉の画像を「応急給水・応急復旧」にした。
50	「鉛製給水管率」を「鉛製給水管率（残存率）」と記載した。その他、記載箇所（P13,P36,P40）も同様。

その他の修正報告

NO	頁	章	項目				内容・検討
1	23	3	1.3	(1)	②	管路	●内容 3段落目 管路の更新率が低い要因は、現在、重要拠点配水管路（大口径の基幹管路）の耐震事業を優先して行っており、事業費に対して更新延長が短いことが挙げられます。重要拠点配水管路は、配水池から応急給水拠点や病院、避難所等災害時の給水が特に必要な施設までの管路です。重要拠点配水管路の更新率は、令和6年度で約1.4%となっています。 ●検討内容 ・重要拠点配水管路の更新率について、単年度1.4%では、やっていることが伝わりにくい。 ・P35の表に重要給水施設配水管路の耐震管率について実績値が記載されているので、全体の進捗度は確認できる。
2	44	6	3.3	(1)		決済方法の再検討	●内容 3. 3 お客さまサービスの向上 （1）決済方法の再検討 本市では、近年スマートフォンアプリによる決済提供会社の拡大を行ってきました。今後も状況に応じ、キャッシュレス化を含めた決済方法の再検討を行い、お客さまの利便性向上を図ります。 目標：キャッシュレス化を含めた決済方法の再検討 ●検討内容 目標としている決済方法の再検討について、現在も引き続きキャッシュレス化による利便性向上を検討しているため、実現する目標を見直すこととした。

頁	修正
24	3段落目 「重要拠点配水管路の更新率は、令和6年度で約1.4%となっています。」を 変更し、P36の表の記載されている内容の「2024（令和6）年度の管路全体の耐震管率は24.8%ですが、重要拠点配水管路の耐震管率は86.9%となっています。」と記載した。
45	再検討を多様化に修正した。 3. 3 お客さまサービスの向上 （1）決済方法の多様化 本市では、近年スマートフォンアプリによる決済提供会社の拡大を行ってきました。今後も状況に応じ、キャッシュレス化を含めた決済方法の多様化を検討し、お客さまの利便性向上を図ります。 目標：キャッシュレス化を含めた決済方法の多様化